

学級目標の設定

～児童生徒、保護者、教師の 思いや願いを生かす集団目標づくり～

埼玉県教育局東部教育事務所

新年度。児童生徒が入学・進級し、新たな学級での生活が始まりました。児童生徒は、この一年間を過ごす学級に対して「こんな学級にしたい」という思いや願いをもっています。また、大切な我が子を預ける保護者も同様に「こんな学級にしてほしい」という思いや願いをもっています。

児童生徒を預かる学級担任の教師は、学級の経営者、教育者として、自校の学校教育目標や当該学年の学年目標の具現化を目指して、どのような学級づくりを進めていくのかという学級経営の構想に思いを巡らします。

これら児童生徒、保護者、教師それぞれの思いや願いをまとめ、目指す学級の姿を表したものが学級目標です。一年間の日常の学級生活において、常に児童生徒と担任教師が意識して共通に取り組むべき目標となります。

ここでは、児童生徒、保護者、担任教師の思いや願いを生かす集団目標としての学級目標のつくり方について考えてみましょう。

注意▶学級目標には、学級担任自身が設定する学級経営目標（学級教育目標）と学級担任と児童生徒とがともに話し合って設定する集団目標とがあります。



1 学級目標設定の前に行っておくこと

これからの一年間、学級全員で共有することになる学級目標はしっかりと慎重に考えていくべきものです。4月の入学式・始業式の直後は学級ができて間もないため、深い話し合いは期待できません。そこで、新年度の次のような機会を利用して学級目標づくりの下ごしらえをしていきます。

(1) 学級担任の学級経営方針の説明

年度当初の学級活動の時間を利用して、担任教師が自身の学級経営方針、学級に対する思い・願いをわかりやすく児童生徒に語る（説く）。

保護者には、学級通信や保護者会の機会を利用して説明し、理解と協力を求める。

(2) 学校教育目標、学年目標の説明

始業式の校長式辞や学年集会時の学年主任からの話を受けて、学級担任がさらにかみ砕いて学級活動の時間や朝の会・帰りの会等の機会を利用して説明する。

学級経営方針同様、保護者には学級通信（学校だより、学年通信）や保護者会の機会を利用して説明する。

(3) 児童生徒の思い・願いの把握

入学式・始業式以来の児童生徒の思いや願いを集約する。

（自己紹介カード、作文「〇年生になって」、連絡帳・生活記録等の記入や発言・発表から）

(4) 保護者の思い・願い

保護者の思いや願いを集約する。

以上、参考例を示しましたが、進行については児童生徒の発達段階によって計画委員会（小学校）・学級活動委員会（中学校）など、児童生徒に司会進行役や書記・記録を任せたり、児童生徒や保護者の思いや願いを集約した資料について児童生徒に作成・発表させたりするとよいでしょう。これを基本的な流れとして創意工夫を加え、自校、当該学年、当該学級の実態に応じた話し合い活動を構築しましょう。



3 学級目標 設定上の留意点

学級目標を設定し実践するには工夫が必要です。目標の羅列であったり、それらを単に教室に掲げておいたりするだけで、その実現を目指す具体的な手立てがないために上手く機能しない場合があります。そのため、次の点に留意しておく必要があります。

（１）学級目標設定の観点の明確化

- ①学級目標を学校教育目標、学年目標と明確に関連付ける。
- ②学級担任としての方針をはっきりさせ、児童生徒の実態、保護者の学校に対する期待などを十分把握して設定する。（４月早々に慌てて設定するのではなく、実態を見据えた上で設定する。）

（２）児童生徒が取り組むことができる学級目標

- ①児童生徒の学級への期待感、貢献する気持ちを育む。

例えば、「仲良く」という学級目標を設定する場合でも、小学校低学年では「学級の友だちと仲良くしよう」、高学年では「学校の友だちと仲良くしよう」というように、児童生徒にどんな学級、学年、学校にしたいのか、児童生徒の抱負について十分に話し合わせた上で、発達段階を考慮して決めていく。

- ②学級目標を実現させる指導を行う。

学級担任は、学級目標の実現に向けて漠然とした指導ではなく、児童生徒の行動目標を決めるなどして、実現へ向けて積極的に取り組む。その際、以下の２点について考慮して実践する。

◆学級目標の具体化

学級目標が児童生徒に具体的に理解されるために、発達段階に応じた表現、例えば、「友だちと仲良く」のように、自分はこの学級目標実現のために何をすべきかということがわかるようにする。

◆学級目標実現への具体的な行動

目標実現へ向けて様々な具体的な活動計画を立てることが大切である。この中には、学校行事（全校や学年単位の行事）などの中で「私たちはどのように参加し、どう取り組むのか」といったことも含めて、具体的に計画して活動を行う。毎朝、または期間内に評価できる目標を活動に取り入れるなどするとよい。

4 学級目標の掲示

学級目標は、一般的に学校教育目標、学年目標とともに教室前面黑板の上に掲示されます。児童生徒にとって常に視界に入ることを考慮して、以下の点に配慮します。

- 学年の発達段階に応じた文字表記（ひらがな、カタカナ、漢字）を使用する。
- 用紙・文字は、全児童生徒が読める大きさにする。
- 記述・表記は、関係者（児童生徒、保護者、教職員）の誰もが意味がわかるものにする。
- 行動目標の形で示す。（児童生徒に期待される言動・行動を児童生徒自身が評価でき、教師や保護者が評価できるよう、動詞を用いたものにする。）

